

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	食道癌術後における集中治療室専従理学療法士配置前後のアウトカムの比較		
② 実施予定期間	実施許可日から 2027年3月31日		
③ 対象患者	対象期間中に当院第二外科で食道がんに対して手術を受けられた患者さん		
④ 対象期間	2014年10月1日 から 2023年12月31日 追跡期間：2024年3月31日まで		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	第二外科、リハビリテーション部		
⑦ 研究責任者	氏名	水野 航作	所属 リハビリテーション部
⑧ 使用する情報等	pTNM分類（癌の進展度分類）、術前化学療法の有無、術前PS（Performance Status）、プリングマン係数、術前%VC(Vital capacity)、FEV(forced expiratory volume)1.0%、手術時年齢、手術時間、術式、術後在院日数、術後合併症の有無、肺炎発症率 離床状況(術後初回坐位,立位,歩行開始日数) 身体機能評価(術前・術後2週・退院時の握力と6分間歩行距離)		
⑨ 研究の概要	<p>食道切除術は、食道癌患者さんに対して施行される手術であり、他の消化器外科手術と比較して術後合併症率の頻度が高く、特に縫合不全、呼吸器合併症などが問題となります。食道癌は、頸部、胸部および腹部にわたって広範囲にリンパ転移をきたしやすいため、3領域リンパ節郭清を伴う食道切除術が標準手術とされています。低侵襲手術の導入や周術期管理の発展により安全性は高まってきましたが、高度な侵襲を伴い術後合併症の頻度は依然として高く予後も不良です。食道癌術後早期離床に関する報告としては、早期からのリハビリテーションが術後の無気肺の発生率を低下させ、胸腔鏡下食道切除術を受けた患者さんの早期回復にも寄与する可能性を示した報告があり、エビデンスが徐々に示されてきています。食道がん患者さんに対して行われる食道癌周術期リハビリテーションは、術後呼吸器合併症の予防および早期退院を目的に多くの施設で実施されています。山口大学医学部附属病院（以下、当院）では2014年より食道癌手術患者さんに対して、術翌日より集中治療室（以下ICU）にて理学療法介入が開始されました。その後2018年8月から</p>		

	<p>ICU (Intensive Care Unit)に理学療法士が配置されることとなり、術後呼吸器合併症予防や早期離床促進が期待されていますが、現状結果が示されていません。</p> <p>本研究は、ICU 専従理学療法士配置前後において早期離床が促進されているか、また身体機能や在院日数、術後合併症等の術後経過にどのような影響があったかどうかを明らかにすることを目的としています。</p>			
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2026年 1月 21日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	<p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。</p> <p>詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。</p>			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	リハビリテーション部の運営費です。			
⑯ 利益相反	ありません			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 リハビリテーション部 担当者：水野 航作			
	電話	0836-22-2651	FAX	0836-22-2652